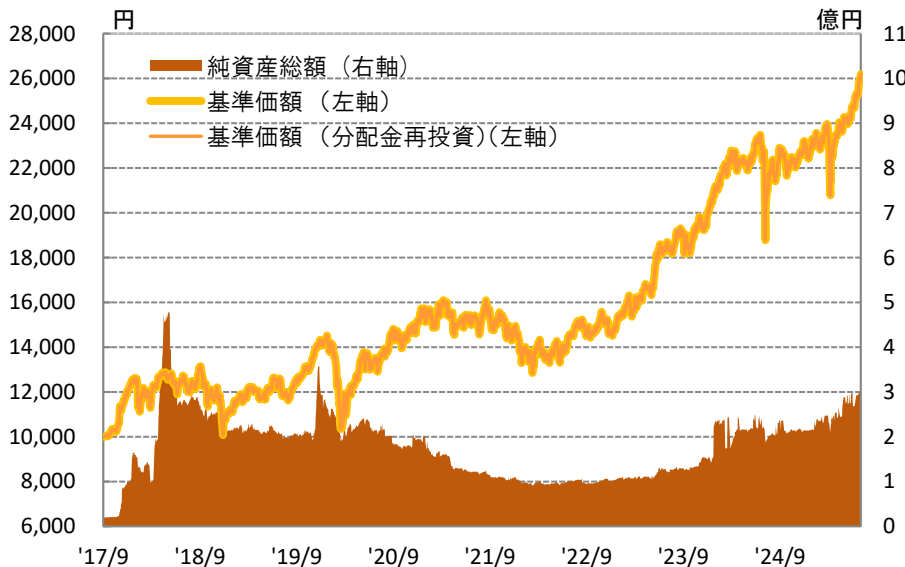


パフォーマンス

データ基準日：2025年7月31日

基準価額	26,188円
前月末比	+1,411円
純資産総額	2億8,710万円

期間別騰落率(%)					
1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
+5.7	+11.3	+12.4	+15.1	+80.9	+161.9



※基準価額は信託報酬控除後の値です。
※基準価額(分配金再投資)は税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

分配金 (1万口当たり、税引前)	
第4期	0円
第5期	0円
第6期	0円
第7期	0円
第8期	0円
設定来累計	0円

※運用状況により、分配金額が変わる場合、
あるいは分配金が支払われない場合があります。

資産構成(%)			
株	式	86.9	
そ	の	他	13.1
合	計	100.0	

市場別比率(%)		
東証プライム		65.7
東証スタンダード		18.2
東証グロース		2.9
現金等		13.1
合	計	100.0

※資産構成・市場別比率・組入比率上位10業種の比率
は当ファンドの純資産に対する比率です。

組入比率上位10業種(全21業種中)	
情報・通信業	14.4%
その他製品	8.2%
化学	8.1%
卸売業	6.3%
不動産業	5.3%
機械	4.7%
金属製品	4.7%
電気機器	4.2%
サービス業	4.2%
小売業	4.2%

ファンドの特色・投資方針

1	わが国の中小型株を中心に成長性の高い銘柄などに幅広く投資します。
2	中小型株の投資魅力である企業の成長性に主として着眼し、また、割安な企業、変化する企業を選別します。
3	中長期的観点からの投資を基本としますが、企業の経営姿勢や業績の変化、株価水準等から総合的に判断し、個別銘柄に対する投資比率の調整を行います。
4	数倍化する可能性のある銘柄の発掘に努めます。

市況

日経平均は史上最高値に迫る。東証グロース市場250指数も上昇基調へ。

株式市場は、6月末からの急ピッチな上昇に対する短期的な過熱感から、指数寄与度の高い値がさ株などに利益確定の売りが出て7月上旬は軟調に推移しました。中旬以降は、米景気の底堅さを示す経済指標の発表や堅調な企業業績、日米関税交渉の合意を受けた米国株の最高値更新や為替のドル高・円安などを背景に、日経平均株価は24日、一時史上最高値(42, 224円)に迫る場面がありました。ただ、その後は高値警戒感から利益確定売りが出て、月末は41, 069円となっています。

新興・中小型株(中・小型株指数)は、月初、国内長期金利の上昇を背景に、成長性の高い銘柄が多い東証グロース市場250指数は大幅下落しました。その後、大きく下げた反動から反発、日米関税交渉の合意を受けた投資家心理の改善も後押しし、株価は持ち直しの動きとなりました。一方、米関税の影響を受けにくい内需関連の中小型株は今月、堅調に推移しました。

こうした株式市場の動きを受けて、当ファンドの運用はMBO(経営陣による買収)を発表した液体・ガスのタンクコンテナ関連銘柄や、好決算発表で最高値を更新した食品株の売却を行う一方、トレーディングカードゲームや各種ゲーム、アニメなど自社コンテンツを持つエンターテインメント関連銘柄の新規購入、および保有銘柄の買い増しを行い、7月末の株式組入比率を86.9%としました(前月末:81.7%)。主要投資対象指数の騰落率(前月末比)は、中型株指数:+3.4%、小型株指数:+5.3%、東証グロース市場250指数:+1.6%となりました。

運用方針

米関税政策、FRB早期利下げ観測に注目。運用は好業績・好配当バリュー株への押し目買い継続。

日経平均株価は7月下旬に史上最高値に接近した後、反落しました。ただ、歴史的な乱高下となった昨年7・8月の動きに比べると、今のところ下落率は比較的限られたものになっています。要因としては、日米貿易交渉の合意を受けて、これまでの「米関税政策未決による心理的な不安感」が後退したことが挙げられます。同時に、長期金利が日米ともに急低下したことも株式相場を下支えしています。これは、7月の米雇用統計で複数月に亘り統計数字が下方修正され、労働市場の軟化が示されたことで、米連邦準備制度理事会(FRB)が景気下支えのために早期利下げに踏み切るのであるとの観測が市場で強まったことが背景にあります。ただ、トランプ大統領は、自動車や鉄鋼・アルミニウム、銅に続き医薬品や半導体などにも分野別の関税措置を導入すると述べていることから、市場は引き続き、米関税政策に相場は振り回される展開が予想され、関税の影響を受けにくい内需株の物色が続くものと思っています。米関税の税率が従来から大幅に引き上げられることで、輸出企業の業績への影響は大きいと考えられます。また長期化する物価高に加えて、猛暑による消費への影響も懸念されることから、景気指標や金融政策などに注視していく必要があります。

運用においては、好業績で低PER・PBRである好配当銘柄への押し目買いに加え、事業再編など構造改革や株主還元強化など資本効率を引き上げつつ投資やM&Aなど成長投資を行う企業に注目してまいります。

ファンドマネージャーの視点(組入比率上位10銘柄)(全46銘柄中)

No.	銘柄名	銘柄コード	市場	業種	組入比率
1	サンフロンティア不動産	8934	東証プライム	不動産業	4.3%
不動産の売買、賃貸仲介からビル管理、改修工事まで展開。都心オフィスビル事業(都心5区を中心に)を中核にホテル事業(開発・再生・運営)、海外事業(ベトナムやインドネシアにおける住宅など)へと事業領域を拡大。					
2	前田工繊	7821	東証プライム	その他製品	4.1%
河川、道路補強等の防災用建築・土木資材の大手。公共事業向けの土木資材が好調。ドイツの塗装工場の本格稼働、原材料費の高騰は製品価格に転嫁。子会社BBSジャパン(自動車ホイール)は自動車レースのF1(フォーミュラワン)にホイールを独占供給(22年から4年間)。					
3	システムサポートホールディングス	4396	東証プライム	情報・通信業	3.3%
独立系のICT(情報通信技術)企業。ITシステムの企画から開発、運用・保守とワンストップで提供。顧客企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)化を背景に、クラウド移行・利用をサポートするクラウドインテグレーション事業などが好調に推移。					
4	コア商事ホールディングス	9273	東証プライム	卸売業	3.3%
ジェネリック医薬品(後発医薬品)原薬輸入のトップ商社。原薬販売が62%、医薬品製造販売が38%と、商社機能と製薬機能を併せ持つビジネスの独自性が特長。営業利益率19%台と高収益。					
5	スカパーJSATホールディングス	9412	東証プライム	情報・通信業	3.2%
衛星有料チャンネル放送「スカパー」のメディア事業と衛星通信サービスなどの宇宙事業を手掛ける。現在、17基の衛星を保有するアジア最大の衛星通信事業者で、衛星を使った通信やデータ分析など宇宙事業で営業利益の8割前後を稼ぐ。					
6	ノリタケ	5331	東証プライム	ガラス・土石製品	3.2%
1904年に洋食器の製造を目的に創立。研削砥石トップ。食器の製造技術で培った独自のコア技術を磨き、研削・研磨工具、セラミック原料や電子ペーストなどの部材、加熱、混練などの製造装置メーカー。2024年に創立120周年を迎えて、組織風土を改革するために若手を積極的に登用し、年功序列からの脱却を目指す考え。					
7	フジマック	5965	東証スタンダード	金属製品	3.1%
1950年設立の総合厨房設備機械メーカー。全国65拠点と中国や東南アジアにグループ企業。企画設計・開発・製造・施工・アフターメンテナンスまでトータルサポート。食器自動仕分けロボットや自律移動搬送ワゴンなど省人化設備の引き合いも増加。					
8	ヒト・コミュニケーションズ・ホールディングス	4433	東証プライム	情報・通信業	3.0%
祖業である販売系営業支援中心の事業ポートフォリオから社会課題・市場環境の変化に合わせ事業領域を拡大。重点領域としてキャラクターやアニメなどのIPライセンスを活用したアパレル商品等の企画・開発、グラハン(空港地上支援業務)事業の拡大、インバウンド・ツーリズム、デジタル営業支援に経営資源集中。関西万博の各種業務を受託。					
9	ユタカ技研	7229	東証スタンダード	輸送用機器	2.8%
ホンダが69.7%保有。事業の柱である排気・駆動部品事業の収益を長期的に極大化することで継続的成長を目指すとともに、電動化基盤の確立や全拠点の黒字化、新技術/製品の仕込み、新たな販路拡大に取り組む。好財務、低PBR。					
10	東京エネシス	1945	東証プライム	建設業	2.8%
火力・原子力・水力の各発電所の建設・保守を行う。東京電力HDの持分法適用会社。既存火力発電所の改造工事やLNG火力発電所の新設工事、原子力発電所の再稼働に向けた工事、バイオマス、再生可能エネルギー発電の受注に注力。					

※組入比率は当ファンドの純資産に対する比率です。

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドは、株式や公社債など値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、当ファンドは、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

- ① 株価変動リスク... 株式市場が国内外の政治、経済、社会情勢の変化等の影響を受けたり、また株式の発行企業の業績悪化、信用状況の悪化などで、基準価額が下落する可能性があります。
 - ② 金利変動リスク... 金利変動により債券価格が変動するリスクをいいます。一般に金利が上昇した場合には、債券価格は下落し、当ファンドの基準価額が下落する可能性があります。
 - ③ 信用リスク..... 公社債および短期金融商品の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利息や償還金をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなるリスク(債務不履行)をいいます。
 - ④ 流動性リスク..... 有価証券等を売買しようとする場合、需要または供給がないために、有価証券等を希望する時期に、希望する価格で、希望する数量を売買することができないリスクをいいます。
 - ⑤ 投資信託に関する一般的リスク
 - ⑥ 運用体制の変更ならびに運用責任者の交代に関するリスク
- 当ファンドのリスクは上記に限定されるものではありません。

お客さまにご負担いただく費用について

直接的に負担する費用

購入時手数料	取得申込受付日の基準価額に、 3.30%(税抜3.00%) の率を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料の詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。
換金時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドを保有している期間、保有している金額に対して 年率0.88%(税抜0.80%) 。 (配分(各税込): 委託者0.4235%・販売会社0.4235%・受託者0.0330%)
その他の費用 ・ 手数料	信託事務の処理に要する諸費用(監査報酬、目論見書等の印刷費用等を含みます。) 有価証券売買時の売買委託手数料等 ※その他費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

ファンドの概要

設 定 日	2017年9月29日
決 算 日	年1回 7月20日(休業日の場合は翌営業日)
信 託 期 間	無期限
収 益 分 配	決算日に収益分配方針に基づいて分配を行います。

お申込みメモ

購 入 単 位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購 入 価 額	購入申込受付日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示されます。
換 金 単 位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位
換 金 価 額	換金申込受付日の基準価額
換 金 代 金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申 込 締 切 時 間	原則として、営業日の午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。

委託者、その他関係法人

委託会社	TORANOTEC投信投資顧問株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第384号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (投資信託設定、投資信託財産の運用指図等を行います。)
受託会社	株式会社りそな銀行(再信託:株式会社日本カストディ銀行) (投資信託財産の管理業務等を行います。なお、信託事務の一部につき、株式会社日本カストディ銀行に委託することができます。)
販売会社	下記、販売会社一覧をご参照ください。 (受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求ならびに償還金および一部解約金の支払い等を行います。下記表は当ファンドの販売会社の一覧表です。)

販売会社一覧

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	一般社団法人日本STO協会
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長(金商)第3号	○				
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○	○
TORANOTEC投信投資顧問株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第384号		○			